

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践が不十分である。思い思いの介護となり、目指すべき方向性、指針が明確でないために、職員目線の現場となってしまう。	理念を職員間で共有し、目指すべき介護のイメージを具体化する。入居者目線の、その立場に立った現場を作り上げる。	チーム会議や現場ミーティングの機会を活用して、理念の再確認を行う。事業所に即した、入居者視点と職員の想いがリンクするような目標を、具体的に説明し、議論して、理念の浸透と実践を目指したい。	6ヶ月
2	4	運営推進会議の定期的な開催と、地域に住まう人たちとの関係性が築けていない。	運営推進会議の定期開催と、それによる地域に住まう人たち、ご家族、ご入居者様が参加して、事業所での暮らし、活動を外へ開かれたものにしたい。	2か月から3か月に1回の運営推進会議の定期開催を行う。参加見込みのある、地域住民、ご家族、知己包括センターへの定期的な呼びかけを行い、参加を募る。	6ヶ月
3	26	カンファレンスの開催時に、討議事項が職員目線の、問題解決型の話し合いとなっている。	職員目線ではなく、入居者の想いや希望、意向をかなえる場としてのカンファレンスへと変えていきたい。	ご家族、もしくは入居者ご本人に参加していただけるカンファレンスを、月に1回は開催し、入居者の意向を反映してケアが行えるようにする。	6ヶ月
4	40	食事のサービスが配食サービスの比重が高く、入居者満足度の低下につながっている。	職員が食材を買い、手作りする機会を増やして、入居者の食の満足度を向上させ、食事量もあわせてアップさせて、健康面の維持向上にもつなげたい。	おやつを手作り食にする機会を増やし、朝食の軽食に関しては職員が手作りする日数を増やしていく。	6ヶ月
5	33	入居者の看取りに関する意向を、随時把握できていない。	定期的にご家族、入居者ご本人の意向をつかみ、なでしこで最期の時までを思い残すことなく、穏やかに過ごして頂きたい。	ご家族、ご本人とのカンファレンス等の機会を活用した看取りのご意向の把握をする。職員研修を行う。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。